

平成21年12月15日

第25回「県民文化奨励賞」の贈呈について

財団法人けんしん育英文化振興財団では、地域の文化活動に対する助成事業を目的として、地域の文化活動の発展に功績のあったお二人の方に「県民文化奨励賞」の贈呈を行いました。

1. 第25回「県民文化奨励賞」贈呈式

日 時 平成21年12月14日（月）

場 所 オリエンタルホテル広島

2. 受賞者

日 本 画 家 船 田 奇 岑 氏 （広島市中区在住）

現 代 美 術 作 家 柴 川 敏 之 氏 （福山市北本庄在住）

3. 受賞者の紹介

日 本 画 家 船 田 奇 岑 氏

船田氏は、伝統的な日本画の制作を通じて、その革新を試みると同時に、現代美術作家としても、現代に通じる表現手段によって新しい造形芸術の世界を切り開いておられます。

氏は、龍泉寺三瀧寺の本坊襖絵、ホテル「ザ・ペニンシュラ東京」の客室の絵画、アメリカ科学雑誌「Cell」の表紙デザインを手掛けるなど、その活動範囲は多岐に及んでおられ、今後とも、美術文化の振興発展に大いに活躍が期待されております。

現 代 美 術 作 家 柴 川 敏 之 氏

柴川氏は、福山市立女子短期大学で絵画表現や造形表現論等について教鞭をとる傍ら、平成7年より「2000年後に発掘された現代社会」という一貫した壮大なテーマで政策・発表を続けており、私たちが日常使用している物が、2000年後に「化石」として発掘されたと想定して作品を制作し、これらをさまざまな空間に配置し2000年後の世界を作り上げておられます。

氏は、平成15年「2000年後の冒険ミュージアム」で、氏の作品と草戸千軒町遺跡の出土品を並べて展示するという斬新な手法で大いに注目されたが、以降も全国各地の美術館等でアートプロジェクトやワークショップなど、精力的に活動されており、今後とも美術文化の振興発展に大いに活躍が期待されております。